

機械設備工事特記仕様書 No.1

【工事概要】

- 1 工事場所 京都府船井郡京丹波町須知色紙田 1 番地 1
- 2 建物概要

建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	消防法令別表第一	備考
京丹波町ツヨクビル	S造平屋建	1階	469.18	4項	

3 工事科目 ●印をついたものを適用し、各一式とする。

工事科目	建物名称				
空気調和設備		●			
換気設備		●			
排煙設備					
自動制御設備					
衛生器具設備					
給水設備		●			
排水設備		●			
給湯設備		●			
消火設備					
ガス設備					
厨房機器設備					
浄化槽設備					
医療ガス設備					
撤去工事		●			

【特記事項】

- 1 一般事項
 - 1) 特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)平成二十八年版」(以下、「標準仕様書」という。)、公共建築設備工事標準図(機械設備工事編)平成二十八年版(以下「標準図」という。))及び「公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編)平成二十八年版」による。
 - 2) 工事種目に電気設備工事及び建築工事を含む場合、その仕様は当該図面及び標準仕様書による。
- 2 特記事項
 - 項目及び特記事項は、●印をついたものを本工事に適用する。ただし、●印のない場合は、※印を適用する。

章	項目	特記事項
一般事項	●設備機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するものまたは、これらと同等のものとする。 ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。 また、〔グ〕印は「京都府庁グリーン調達方針」(以下、「グリーン調達」という。))の特定調達品目を示す。 ●京都府ホームページ参照 <http://www.pref.kyoto.jp/zaisan/kankyo.html>
	●機材の承諾	機材の承諾に際しては、原則として国土交通省大臣官房官庁営繕部建築課管轄技術管理室監修の機械設備工事機材承諾図様式集(最新版)によるものとする。
	●機材の品質・性能証明	使用する機材が、(財)公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価書 設備機材等評価名簿(最新版)」による場合は、評価書の写しをもって、標準仕様書第1編第1章第4節1.4.2(c)の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。 ただし、標準仕様書に規定される製作図・試験成績書等は除く。
	○グリーン調達適合品の確認	グリーン調達適合品の証明を監督職員に提出する。 ○ ○ ○
	●現場代理人	本工事の施工に当たっては、請負契約書第10条に基づき現場代理人は、主任技術者又は監理技術者と同様、受注者との直接的かつ恒常的な雇用関係のある者を選任する。
	○電気保安技術者	※適用する ○適用しない
	○技能士(一級)	※配管(配管工事) ○建築板金(ダクト製作及び取付け) ○冷凍空調和機器施工
	●工事用電力・水その他	本工事に必要な工事用電力・水などの費用は、引き渡し時まですべて受注者の負担とする。
	●官公署への手続き	官公署等への手続きは速やかに行い、それに要する費用は、すべて受注者の負担とする。
	○工事用仮設物	構内につくることが ※できる ○できない
○足場、さん橋類	別契約の関係者・受注者が定置したものは、無償で使用できる。	
○監督職員事務所	※設置しない ○設置する (○本工事 ○別途)	
○監督職員事務所 に備え付ける図書	下記の図書を監督職員事務所へ備え付ける。 ・公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編) ・公共建築設備工事標準図(機械設備工事編) ・機械設備工事監理指針 ・機械設備工事施工チェックシート ・建築設備耐震設計施工指針 ・工事写真の撮り方(最新版)・建築設備編 ・公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編)	
○建設副産物の処理 及び建設発生土の処理	○建設副産物の処理 右記のほか、 現場説明書による。 ○引き渡しを要するもの【 】 ○再生資源利用を図るもの【 】 ○特別管理産業廃棄物 ○PCB使用機器 ○SF6ガス使用機器 ○	
○建設発生土の処理	右記のほか、 現場説明書による。 ○構外指定地に搬出処理 ※(財)城陽山城砂利採取地整備公社 ○ ○構内指示場所に敷き均し ○構外搬出適切処理	
●再生資源利用促進 計画書の作成・提出	建設副産物において、発生量の多少に係わらず、再生資源利用促進計画書(建設副産物対策近畿地方連絡協議会)について、施工計画書に含めて提出する。 また、実績については再生資源利用促進計画書として提出する。	
1)「建設発生土処理計画書」及び「建設副産物等処理計画書」を監督職員に提出する。 2)関係法令等に従い、適正に廃棄物等を処理し、「建設発生土処理報告書」及び「建設副産物処理報告書」により監督職員に報告する。		
○アスベスト成形板の処理等 施工調査	アスベスト成形板の撤去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は図面により記録し監督職員に提出する。 ・アスベスト成形板使用部位の確認 ・アスベスト成形板の種別、厚さ等の確認 ・アスベスト成形板使用数量の確認 施工範囲等の確認	
確認範囲	※成形板の製造年等の確認 ○X線解析法	
処理方法	※非飛散性アスベスト廃棄物の取扱いに関する技術指針に準じあらかじめ処理計画書を作成し、適切に解体処分等を行うこと。	

章	項目	特記事項
一般事項	●工事関係書類	管轄工事契約関係書類提出書類書式集 一覧表により提出。 ●京都府ホームページ参照 <http://www.pref.kyoto.jp/eizen/index.html>
	○履行報告	月報 ※2部 ○3部 毎月末に於て、翌月の5日までに提出する。
	●工事写真	1)国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「工事写真の撮り方(最新版)建築設備編」による。 2)工事完成時、整理の上、1部提出する。 3)デジタルカメラで撮影可とする。
	●完成図書	名 称 内 容 大きさ 部 数 ○完成図 金文字製本 A4版 1部 ○完成図 ○背貼り製本(版) ○A4ファイル止め 2部 ○施工図 ○背貼り製本(版) ○A4ファイル止め 2部 ○機器完成図等 機器製作図 ファイル止め A4版 2部 保守指導案内書(機器取説書を含む) 機器性能試験成績書・保証書・施工の試験成績書
	○諸官庁提出書類	副 本 1式
	●原図	完成図・施工図 1部
	●完成写真	アルバム綴り 2部
	●電子納品については、現場説明書による。	
	●著作権等	当該建物において取得する、施工図等の著作権に係る当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする。
	●付属品及び予備品	標準仕様書によるほか、別表Iによる。
共通事項	●総合調整 (測定結果は報告書にて提出)	●風量調整(測定共) ●水量調整(測定共) ○室内外空気温度測定 ○室内気流及びじんあいの測定 ○騒音の測定 ●飲料水の水质の測定 (1)臭気 (2)味 (3)色 (4)色度 (5)濁度 (6)残留塩素
	●耐震施工	1)設備機器の固定は、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針2005年版」による。 2)下記の設計用水平震度(KH)により、機器製作固定を行う。 設置場所 ○特定の施設 ●一般の施設 重要機器 一般機器 重要機器 一般機器 上階階、屋上及び塔屋 2.0(2.0) 1.5(2.0) 1.5(2.0) 1.0(1.5) 中 間 階 1.5(1.5) 1.0(1.5) 1.0(1.5) 0.6(1.0) 1階及び地下階 1.0(1.0) 0.6(1.0) 0.6(1.0) 0.4(0.6)
		設置場所 ○特定の施設 ●一般の施設 水 槽 水 槽 上階階、屋上及び塔屋 2.0 1.5 中 間 階 1.5 1.0 1階及び地下階 1.0 1.0
		注1 ()内の数値は、防振支持の機器の場合に適用する。 注2 設計用鉛直震度は、設計用水平震度の1/2とする。 注3 上階階の定義は、6階建以下の場合には最上階、7~9階建の場合には上階2階。 注4 重要機器(水槽類)は、下記に示すものとする。(水槽類にはオイルタンク等を含む。)
	○一般用弁	標準仕様書第2編2.2.1(1)~(12)によるほか、下記による。 1)水道直結部及び図面特記部の耐圧は10K以上、その他は5K以上とする。 2)給水・給湯用の青銅製弁は、給水用青銅弁を使用する。
	○フレキシブルジョイント	機器廻りに取付けるフレキシブルジョイントは、鋼板に対してはペローズ形、FRPに対しては合成ゴム製とする。
	○伸縮管継手 (鋼管用)	鋼管用伸縮管継手は下記による。 ※ペローズ形 ○スリーブ形
	○溶接接合	溶接部の非破壊検査は、 ※適用しない ○適用する(○放射線透過検査 ○浸透深傷検査又は磁粉深傷検査)
	○地中埋設標及び埋設表示用テープ	1)給水管 地中埋設標(※要 ○不要) 埋設表示用テープ(※要 ○不要) 2)消火管 地中埋設標(※要 ○不要) 埋設表示用テープ(※要 ○不要) 3)ガス管 地中埋設標(※要 ○不要) 埋設表示用テープ(※要 ○不要) 4)油 管 地中埋設標(※要 ○不要) 埋設表示用テープ(※要 ○不要) 5)ブライ管 地中埋設標(※要 ○不要) 埋設表示用テープ(※要 ○不要) 用途表示のあるテープ(幅は150mm以上)で、2倍長以上重ね合わせて使用する。
	○防食処理	土中埋設の排水用塩ビライニング鋼管は、防食処置を行う。
○保温	1)保温材の使用は、下記による。 給水管・排水管 ※ポリスチレンフォーム保温材 ○ 排煙ダクト・煙道、排気筒 ※ロックウール保温材 ○ その他 ※グラスウール保温材 ○ 2)膨張管及び膨張水槽からの補給水管の保温は、冷水管に準ずる。 3)鋼板製タンクの保温 ※必要 ○不要 4)保温を施す膨張水槽等の蓋の保温 ※必要 ○不要 5)エア抜管の保温厚は20mmとし、仕様は当該配管の項に準ずる。また、保温を行う範囲はエア抜管までとする。 6)露出配管の保温外装種別は、下記による。 ・屋内 ※合成樹脂カバー1 ○合成樹脂製カバー2 ○ ・屋外 ※ステンレス鋼板 ○ 7)弁、ストレーナ等の金属製カバー外装種別は、下記による。 ・屋内 ※カラー亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板 ○ ・屋外 ○カラー亜鉛鉄板 ○ステンレス鋼板 ○ 8)車庫内のダクト及び配管の保温は、機械室による。 9)合成樹脂製支持受 ※硬質ウレタンフォームに準ずるもの ○ビーズ法ポリスチレンフォームに準ずるもの	
○塗装	機械室・電気室内の塗装は ※行う ○行わない エポキシ樹脂コーティング及びライニングの乾燥方法は下記による。 ※加熱乾燥 ○常温乾燥	
○ボックス	PF管で配管する場合は、樹脂製ボックスを使用する。 機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。ただし、電動機の出力、燃料消費量及び圧力損失は、表示された数値以下とする。	
○はつり	1)既存のコンクリート床・壁等の配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターを使用する。 2)復旧はモルタル補修までとする。 復旧方法は ※遠方復旧式(電気式(定格入力 DC24V 0.6A以下)) ○手動復旧式	
○消音内貼	ダクト及びチャンパー、消音エルボの内貼り(箇所図示)は下記による。 ・消音内貼り部分の外部保温は ※不要 ○必要 ・チャンパーの寸法は、外形寸法を示す。 (ただし、ダクト及び消音エルボは、内形寸法を示す。) ・点検口は内貼り仕様又は断熱戸とする。	
○ドレン抜き	外壁に面するガラリに直接取付けるチャンパー類に必要に応じ設ける。	

章	項目	特記事項
共通事項	○取付枠	防火区画部に取付ける吹出口、吸込口等で取付枠を必要とするものは鋼枠を使用する。
	○機器の基礎	アンカーボルト及びナットは、下記による。 ・屋外、多湿室等 (※溶融亜鉛メッキ ○SUS) ・その他 (※一般品 ○) ○機器側の材質がSUS製の場合は、SUS製とする。
	○防火区画	○平面階 ○図示 ○
	○掲示板	機械室に操作順序、注意事項、連絡先及び系統図などを画いた掲示板を設ける。
	○天井仕上区分	()書きの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。
	○給油設備	地下オイルタンク ○設ける ○設けない 遠隔油量指示計 ○設ける ○設けない 副指示計 ○設ける ○設けない オイルサーピスタック 油面計 ※ゲージ式 ○ガラス管式 油面制御装置の機能は下記による。 ○給油ポンプの起動、停止制御用 ○返油ポンプの起動、停止制御用 ○満油警報 ○遠隔警報(○減油 ○満減油) 油管(露出、トラフ内) ※配管用炭素鋼管(黒) ○ 油管(地中) ※ポリエチレン被覆鋼管 ○
	○建物導入配管 (排気及び通気を除く)	○標準図 施工4(a) (フイア/フイットを使用) ○標準図 施工5(b) (ボールジョイントを使用) ○標準図 施工5(c) (スリクッションを使用)
	○鋼材	屋外部分 ○溶融亜鉛めっき(※2種35 ○2種50) ○ステンレス鋼製(SUS304)
	○制御及び操作盤	構成 ○進相コンデンサー ○運転時間計 表示等 ○運転(赤色)及び停止(緑色)表示 ○保護継電器の動作表示 接点及び端子 ○遠方発停用端子 ○運転時間表示用端子 ○温水出入口温度用端子 ○冷水出入口温度用端子 ○消費電力表示用端子(ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用) ○給水量表示用端子(ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用) ○燃料消費量表示用端子(ボイラーの場合、小型貫流ボイラーに適用)
	●主方式	○全空気方式(○中央 ○各階ユニット) ○ファンコイル・ダクト併用方式 ●個別方式：ルームエアコン ○
○主要熱源機器	○ボイラー ○温水発生機 ○コージェネレーション装置 ○水蓄熱ユニット ○冷凍機()	
●設計時の温度条件	場 所 屋 外 屋 内(調整目標値) 時 期 温度(DB) 湿度(RH) 温度(DB) 湿度(RH) 温度(DB) 湿度(RH) 冬 期 0.1 ℃ 54.2 % 19.0 ℃ 40.0 % ℃ % 夏 期 35.8 ℃ 47.0 % 28.0 ℃ 50.0 % ℃ %	
○長方形ダクトの工法	○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法(○共板フランジ工法 ○スライドオンフランジ工法)	
○ダクトの分岐方法	○割込み工法 ○直付け工法	
●配管材料 (図面特記部分は除く)	冷水管 ※配管用炭素鋼管(白) ○ 冷却水管 ※配管用炭素鋼管(白) ○塩ビライニング鋼管 (SGP-VA, SGP-FVA) ○ 空調用排水管 ※配管用炭素鋼管(白)(○ねじ接合 ○MDジョイントによる接合) ○配管用亜鉛めっき鋼管 ●硬質ポリ塩化ビニル管 蒸気配管 給気管 ※配管用炭素鋼管(黒) ○ ※圧力配管用炭素鋼管(黒) ○ 補給水管 ※配管用炭素鋼管(白) ○ 膨張管 ※配管用炭素鋼管(白) ○ エア抜き管 ※配管用炭素鋼管(白) ○ 冷媒管 ○鋼管 ●断熱材被覆鋼管	
○温度計	※工業用バイメタル式温度計 ○ガラス製棒状温度計 ○ガラス製二重管温度計	
○定風量ユニット 変風量ユニット	○メカニカルタイプ ○風速センサータイプ (○プロペラ形センサー ○熱線センサー)	
○ファンコイルユニット	風量分配ダクトは ○亜鉛鉄板製 ○自己消火性のポリスチレンフォームなど ※トリアキアクト	
○バナー制御方式	○オン・オフ制御 ○ハイ・ロー制御 ○比例制御	
○電動機盤	●進相コンデンサー (○要 ※不要)	
○排熱投入形再生器	直だき吸収冷水機に(○要する。 ※不要である。)	
○高温再生器の構造	※図面による。	
○コージェネレーション装置	発電方式 ○原動機・発電機 ○燃料電池 熱回収装置 ○温水熱交換機 ○排ガスボイラー ○排ガス熱交換機 ○熱回収ポンプ ○その他 その他装置等 ○補機付制御装置 ○冷却塔(放熱用) ○	
○集中リモコン	表示機能 ○屋外機吸込温度 ○空調エネルギー使用量按分 ○運転時間積算 データ管理機能 ○屋外機吸込温度 ○空調エネルギー使用量按分 ○運転時間積算	

機械設備工事特記仕様書 No.2

章	項目	特記事項									
空気調和設備	○鋼板製煙道	厚さ ※3.2mm ○4.5mm ○ばい煙濃度計の取付座 ○ばいじん量測定口 ○伸縮継手 ○掃除口									
	○ばい煙濃度計	※ファン付 ○ファンなし (電源はボイラー制御盤より取り出し、配管配線共本工事に含む)									
	○瞬間流量計	○固定形 個 ○着脱可能形 (測定用タッピング 個 本体 個)									
	●保温 (図面特記部分は除く)	1) 冷媒管の保温外装は下記による。 ・屋内 隠べい部 ※不要 ○必要 露出部 ※保温化粧ケース (塩化ビニル樹脂製) ○ ・屋外 ○ステンレス鋼板 (樹脂製 ○アルミ合金製) ●保温化粧ケース (樹脂製 ○ステンレス鋼板製 ○溶融亜鉛メッキ鋼板製) ・保温化粧ケースの下部カバー ●必要 ○不要 2) ファンコイルユニット等のドレン管の保温は、給排水設備工事の排水管による。 3) 加温用給水水槽の保温は膨張タンクに準ずる。 4) トラフ内の油管はプラスチックテープ1/2重ね1回巻きとする。									
換気設備	●ダクトの工法	○アングルフランジ工法 ○コーナーボルト工法 (○共板フランジ工法 ○スライドオンフランジ工法) ●スパイラルダクト									
	○ダクトの分岐方法	給気ダクト ○割込み方式 ○直付け方式 排気ダクト ○割込み方式 ○直付け方式									
	○厨房排気ダクトの板厚	厨房排気ダクトは亜鉛鉄板製とし、板厚は下記による。									
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>ダクトの長辺</th> <th>板厚</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>450mm以下</td> <td>0.6mm</td> </tr> <tr> <td>450mmを超え1200mm以下</td> <td>0.8mm</td> </tr> <tr> <td>1200mmを超え1800mm以下</td> <td>1.0mm</td> </tr> <tr> <td>1800mmを超えるもの</td> <td>1.2mm</td> </tr> </tbody> </table>	ダクトの長辺	板厚	450mm以下	0.6mm	450mmを超え1200mm以下	0.8mm	1200mmを超え1800mm以下	1.0mm	1800mmを超えるもの
ダクトの長辺	板厚										
450mm以下	0.6mm										
450mmを超え1200mm以下	0.8mm										
1200mmを超え1800mm以下	1.0mm										
1800mmを超えるもの	1.2mm										
排煙設備	○排気フード	1) 排気フードの補強・支持金物・接合剤等は、亜鉛鉄板製ダクトの当該事項によるものとし、材質は下記による。 ※ステンレス鋼板 (補強共) ○亜鉛鉄板 2) 排気フード廻りに取付ける幕板は、上記フードと同材質とする。 ※本工事 ○別途工事 3) グリスフィルターの予備 ※不要 ○必要									
	●保温	・多湿箇所ダクトの保温 ※不要 ○必要 ・厨房用外気取り入れダクトの保温 ※不要 ○必要 ・外気取り入れチャンバーの保温 ※不要 ○必要 ・全熱交換器の外気取り入れダクトの保温 ○不要 ※必要 ・排気ダクトの外壁面より1mの範囲 ○不要 ※必要									
	○排煙対象部分	○廊下 ○事務室 ○図示 ○最大面積 m ²									
	○ダクトの種類	○高圧1ダクト ○高圧2ダクト									
自動制御	○ダクトの工法	※アングルフランジ工法									
	○ダクトの材料	※亜鉛鉄板製 ○普通鋼板製									
	○排煙口	1) 形状 ○スリットフェース形 ○パネル形 ○ダンパー形 2) 排煙口の開放 ○手動 (○機械式 ○電気式) ○煙感知器連動 3) 復帰装置 ○手元復帰式 (○手動式 ○電気式) ○遠方復帰式									
	○保温	床下及び暗渠内の保温 ※不要 ○必要 (図示)									
衛生器具設備	○小便器用節水装置	電気供給方式 ※AC電源 ○乾電池 ○水流発電充電電池									
	○自動水栓	電気供給方式 ※AC電源 ○乾電池 ○水流発電充電電池 手動スイッチ ○無し ※有り									
	○大便器用洗浄弁	操作方式 ○手動式 (○ハンドル式 ○レバー式) ○電気開閉式 (○センサー式 ○タッチスイッチ式)									
	○水石けん入れ	○手洗器一体型 ○手洗器分離型 ○									
給水設備	○身障者用器具	1) 大便器洗浄弁 ※センサー式 ○タッチスイッチ式 ○レバー式 2) 洗面器の水栓は自動水栓とする。									
	○大便器耐火カバー	※設ける (ビツ内は除く) ○設けない									
	●給水方式	○公共水道直結 ○受水タンク及び高置タンク ●受水タンク及び加圧ポンプ ○直結ブースターポンプ									
	●配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管 ○ステンレス鋼管 (SUS304) (呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合) ●ビニル管 (HIVP) ○ポリ粉末ライニング鋼管 (SGP-PA, SGP-FPA) ○塩ビライニング鋼管 (SGP-VA, SGP-FVA) ○ 地中配管〔屋内〕 ○ステンレス鋼管 (SUS316) (呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合) ○水道用ポリエチレン二層管 (50φ以下) (※2種 ○1種) ○ビニル管 (HIVP) ○ポリ粉末ライニング鋼管 (SGP-PD, SGP-FPD) ○塩ビライニング鋼管 (SGP-VD, SGP-FVD) ○ 地中配管〔屋外〕 ○ステンレス鋼管 (SUS316) (呼び径60Su以下は拡管式、呼び径75Su以上は溶接接合) ○水道用ポリエチレン二層管 (50φ以下) (※2種 ○1種) ○ビニル管 (HIVP) ○ポリ粉末ライニング鋼管 (SGP-PD, SGP-FPD) ○塩ビライニング鋼管 (SGP-VD, SGP-FVD) ○									
○緊急遮断弁装置	○要 ○不要 駆動方式 ○電気式 ○機械式										
○量水器	○直読式 ○バルブ式										

章	項目	特記事項
給水設備	○水栓柱	※合成樹脂製 (70x70x1300H) ○ステンレス製 () ○人造石とぎ出し製 () ○アルミニウム合金製 () 特記なき場合、水栓取付け高さは約600とする。
	○管の埋設深さ	1) 一般敷地 ※300mm ○ 2) 構内車両通路 ※600mm ○ 3) 寒冷地では凍結深度以上とする。
	○加入金・負担金	○不要 ○必要 (※別途 ○本工事)
	○本管引込工事	※本工事 ○別途工事
排水設備	○排水方式	汚水・雑排水 [屋内] ※分流式 ○合流式 汚水・雑排水 [屋外] ○分流式 ※合流式 ポンプ排水 ○有り (○雑排水 ○汚水 ○浄化槽2次側) ○なし
	○放流式	汚水 ○直放流下水管 ○浄化槽 ○ 雑排水 ○直放流下水管 ○浄化槽 ○別途掛・側溝
	●配管材料 (図面特記部分は除く)	屋内雑排水管 ○排水用塩ビライニング鋼管 ○鋼管 (SGPW) (○ねじ接合 ○MDジョイントによる接合) ●ビニル管 (VP) ○耐火二層管 ○ 屋内汚水排水管 ○排水用塩ビライニング鋼管
	通気管	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 (RF-VP) ○鋼管 (SGPW) (○ねじ接合 ○MDジョイントによる接合) ○ビニル管 (VP) ○排水用塩ビライニング鋼管 ○耐火二層管 ○
給湯設備	地中配管〔屋内〕	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 (REP-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 (RS-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 (RF-VP) ●ビニル管 (VP) ○ビニル管 (VU) ○
	地中配管〔屋外〕	○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 (REP-VU) ○リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 (RS-VU) ○ビニル管 (VP) ○ビニル管 (VU) ○
	鋼管類のポンプアップ排水用の配管は、塩ビライニング鋼管 (SGP-VA, SGP-FVA) (地中配管はSGP-VD, SGP-FVD) とし、継手はフランジ又はハウジング形継手とする。	
	○清水試験継手	※必要 (図示箇所に取付ける) ○不要
消火設備	○煙試験 (排水・通気)	※不要 ○必要
	○負担金	※不要 ○必要 (○別途 ○本工事)
	○本管接続工事	※本工事 ○別途工事
	●給湯方式	○中央式 ●局部式
消火設備	●配管材料	※鋼管 (壁又は床埋設をする場合は、保温付被覆鋼管を使用してもよい。) ○ステンレス鋼管 ○耐熱性塩ビライニング鋼管 ○保温付被覆鋼管 ●機器付属品 (フレキ管等)
	○保温	ガス湯沸器の排気筒の隠蔽箇所の保温は、標準仕様書第2編3.1.5の表2.3.6及び表2.3.7の [h, (イ), X] による。
	○消火設備の種類	○屋内消火栓 ○スプリンクラー ○泡消火 ○不活性ガス消火 () ○連絡送水管 ○
	○表示灯	○屋内消火栓箱には、消火ポンプ運転表示灯取付口を設ける。
ガス設備	○配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管 ※配管用炭素鋼管 (白) ○圧力配管用炭素鋼管 (白) ○ 屋内外地中配管 ※外面被覆鋼管 (SGP-VS)
	○保温	消火用充水タンクの保温を ※施工する (膨張タンクによる) ○施工しない 消火用呼水タンクの保温を ※施工しない ○施工する (膨張タンクによる) 屋外露出管の保温を ※施工しない ○施工する (給水管の保温仕様準ずる) 屋内露出管の保温を ※施工しない ○施工する (給水管の保温仕様準ずる) トレンチ内の保温を ※施工しない ○施工する (給水管の保温仕様準ずる)
	○ガスの種類	○都市ガス (発熱量 ※45,000kJ/m ³ ○ KJ/m ³) ○液化石油ガス (※50kg 本立 ○20kg 本立)
	○ガスメーター	親メーター ※貸与品 ○購入 子メーター ※購入 ○貸与品 計量方式 (○直読式 ※バルブ式)
設備	○配管材料 (図面特記部分は除く)	一般配管 ※配管用炭素鋼管 (白) ○ 屋内外地中配管 ○ポリエチレン被覆鋼管 ○ガス用ポリエチレン管 ○ 都市ガスの場合は、供給者仕様による。
	○地中埋設管の接合法	○SGM工法 ○ネジ工法 ○PE管工法
	○ビット内施工法	※溶接工法
	○負担金	※不要 ○必要 (○別途 ○本工事)
○本管接続工事	※本工事 ○別途工事	
設備きく井	○掘削工法 ○ロータリー式 ○ダウンザホールハンマー式 深度 ()m ○ケーシング材質 ※配管用炭素鋼管 (黒管) ○配管用ステンレス鋼管	

章	項目	特記事項
井設備	○掘削工法	○回転掘削式 ○ロータリー式 ○ダウンザホールハンマー式 ○ロータリーパーカッション式
	○設置機器	安全装置の適用は図面による。
浄化槽設備	○形式	○ユニット形 ○現場施工形
	○処理方法	○小規模合併処理 (別紙参照) ○合併処理 (別紙参照)
設備カス		※図面による。

別表 1 付属品・予備品

○工具箱 (ドライバー、モンキーレンチ、組スパー、ハンマー)	○ポンテン (大、小)
○マンホールフック ○パイプレンチ ○ポンプブライヤー	○キーボックス
○イージーキャビネット 箱	○キーボックス
○ウォールキャビネット (W= D= H=) × 個	
○盤類予備品 (ランプ及びヒューズの100%)	

空調機器リスト

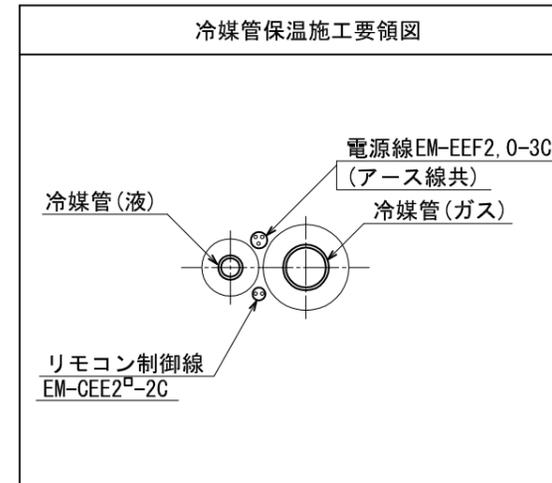
記号	機器名称	種別	機器仕様									設置場所	参考品番	備考
			形式	冷房能力 (Kw)	暖房能力 (Kw)	電源	圧縮機出力 (Kw)	液管 (φ)	ガス管 (φ)	消費電力 (Kw)	台数			
RAC-2	ルームエアコン	室内機	壁掛形 (1方向)	9.0	10.6	1φ 200V	1.0	6.4	12.7	3.5	2	事務所エリア・展示スペース	RAS-XJ90F2	(展示スペースは2期工事)
		室外機	リモコン共								2	屋外		メーカー標準室外機基礎共

(特記事項)

- 1) ルームエアコンのメーカー別による電気容量等の僅差の相違は認める。
- 2) 冷媒管は被覆銅管とし、被覆厚は、9.52CUは8mm以上、12.7CU以上は10mm以上とする。
- 3) 冷媒管施工時に管内にゴミや水分が入らない様に注意し、機器と接続する前に、窒素ガスで配管内の吹き飛ばし洗浄を行うこと。
- 4) 冷媒配管の気密試験は、空調機メーカーの仕様による。
- 5) 冷媒配管の屋外露出部分は、樹脂製化粧カバー仕様とする。
- 6) 機器表の各定格能力は、JIS条件時とする。
- 7) 冷媒管サイズは下表とする。(参考)

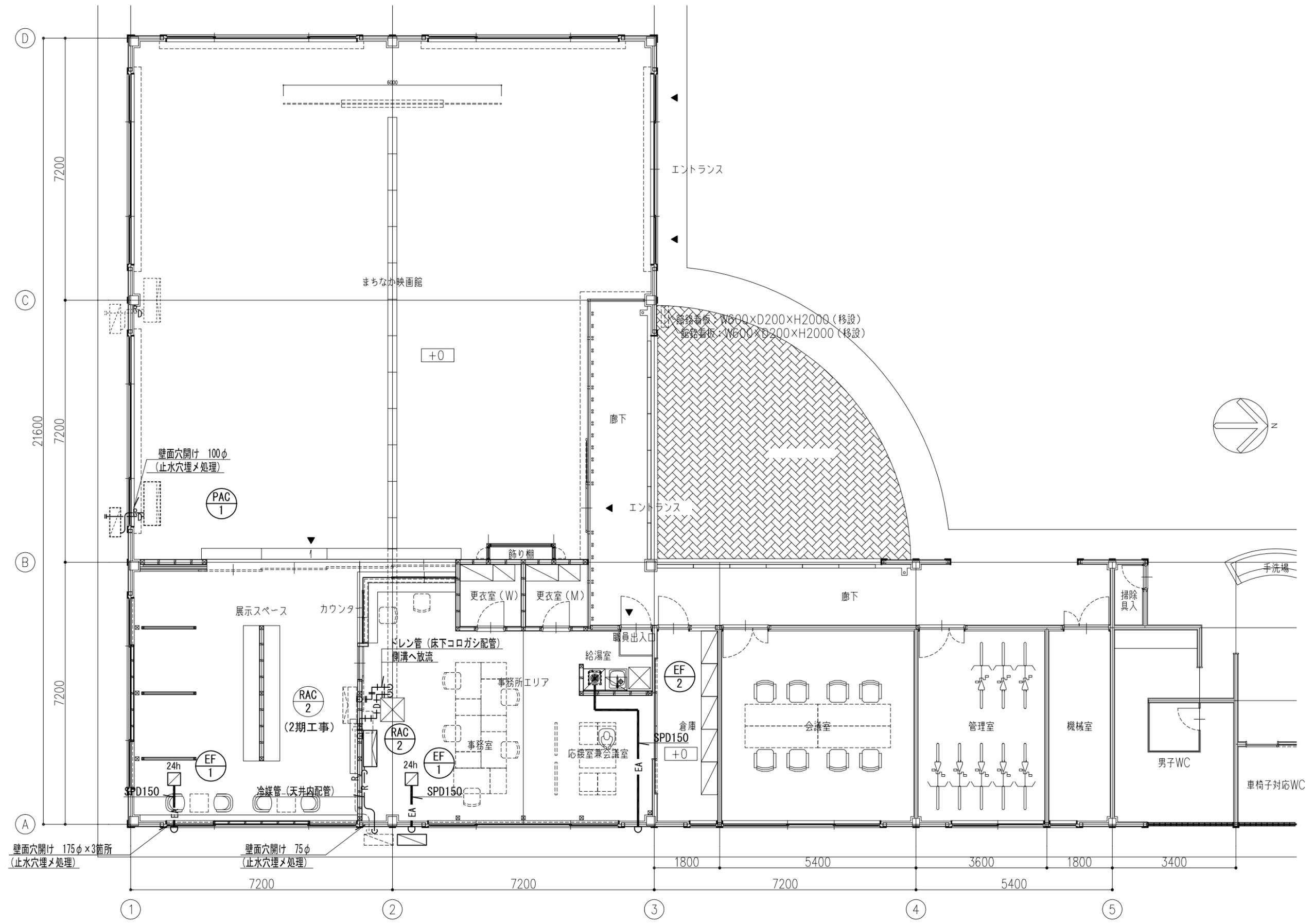
冷媒管記号	冷媒管サイズ
— R —	6.4 φ + 12.7 φ

ドレン管記号	ドレン管サイズ
— D —	機器～横枝管 VP25



換気機器リスト

記号	機器名称	種別	機器仕様							設置場所	参考品番	備考
			形式	風量 (CMH)	静圧 (Pa)	電源	ダクト径 (mm)	消費電力 (Kw)	台数			
EF-1	ダクトファン	天井埋込形	インテリアタイプ (強弱切替付)	350	40	1φ 100V	150	0.049	2	事務所エリア・展示スペース	VD-20ZKC10	SUS製深型パイプフード共
EF-2	レンジフードファン	深形					150		1	給湯室	建築工事	ダクト・SUS製パイプフードは本工事



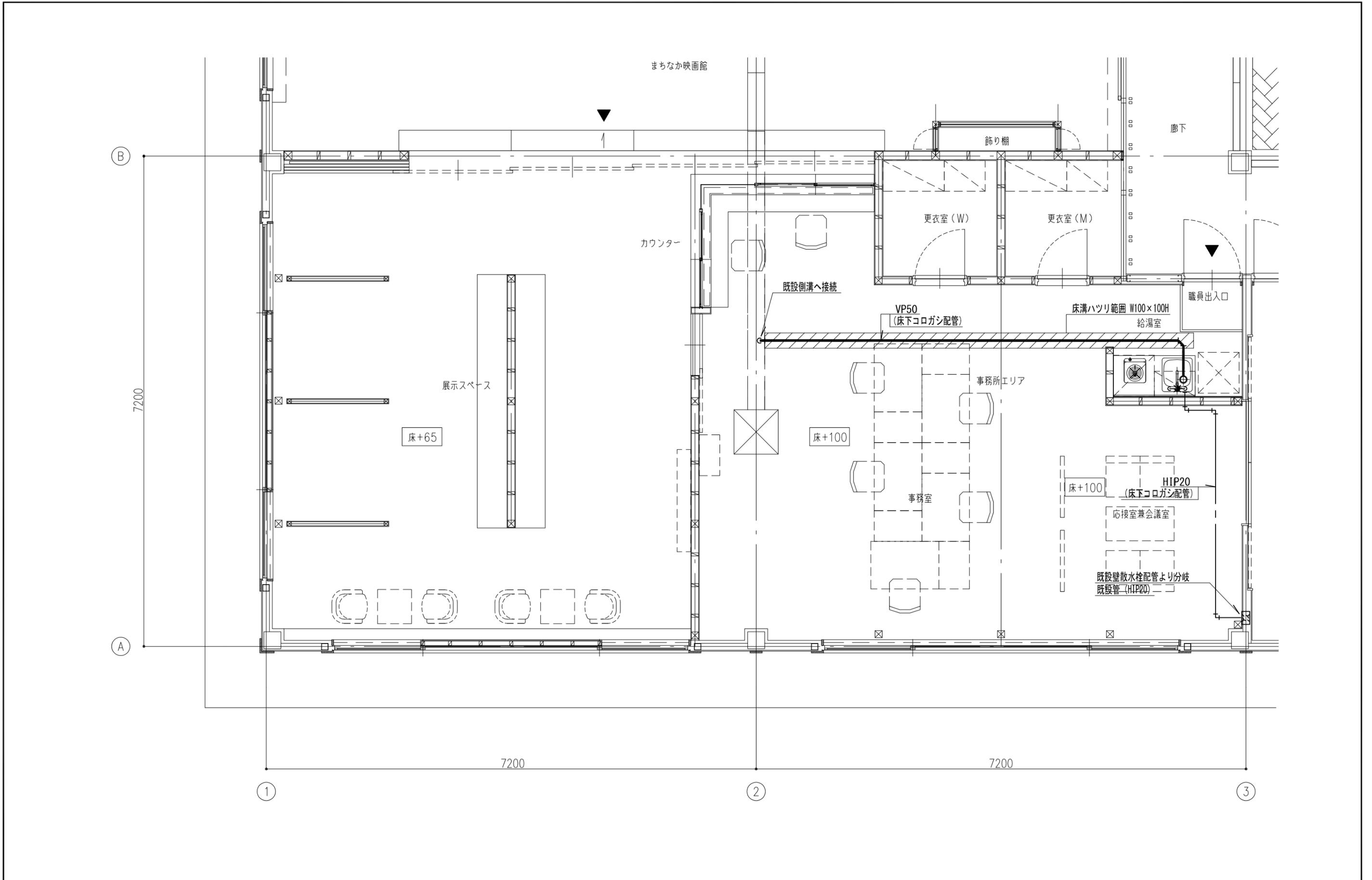
壁面穴開け 175φ×3箇所
(止水穴埋メ処理)

壁面穴開け 75φ
(止水穴埋メ処理)

壁面穴開け 100φ
(止水穴埋メ処理)

館務看板: W600×D200×H2000 (移設)
館務看板: W600×D200×H2000 (移設)

梶村東建築設計事務所 AZUMA KIRIMURA ARCHITECT & ASSOCIATES		PROJECT NO 京丹波町ロケーションオフィス事務所整備事業	空調平面図 (改修後)	機 械 M-04
DRAWN BY	CHECKED BY	DATE H29.07.31	SCALE 1:100	



桐村東建築設計事務所 AZUMA KIRIMURA ARCHITECT & ASSOCIATES		PROJECT NO 京丹波町ロケーションオフィス事務所整備事業	事務所エリア詳細図 (改修後)	機 械 M-05
DRAWN BY	CHECKED BY	DATE H29.07.31	SCALE 1:50	

既設空調機器リスト

記号	機器名称	機器仕様								設置場所	既設品番	備考	
		形式	冷房能力 (Kw)	暖房能力 (Kw)	電源	圧縮機出力 (Kw)	液管 (φ)	ガス管 (φ)	消費電力 (Kw)				台数
PAC-1	空冷HP式パッケージエアコン	床置形 (1方向)	25.0	28.0	3φ 200V	5.8	12.7	25.4		1	ふれあいホール	屋内機 : RPV-AP280K 室外機 : RAS-AP280SH1	東側1台のみ移設

